



# 信太の森ニュース

No. 23

2016年3月5日



FANクラブ・トラスト協会・公園協議会共催のカスミサンショウウオ観察会（惣ヶ池湿地）

信太山丘陵市有地は、自然公園化に向けた公園協議会による保全作業が10月から本格的にスタートし、キック・オフ・イベントも開催されて、基本構想に沿ってネザサ群落が切り開かれて少しずつ景色も変わり、公園化がはじまったことが実感できるようになりました。

私たちの運動を応援するかのごとく3年続けて飛来していたコウノトリですが、4年目の今年は確認出来ませんでした。

信太山丘陵には飛んでこなかったということも考えられますが、大野池の水抜きが行われず、飛来できるような採餌環境がつけられなかったこともその一因でしょう。大野池を管理する光明池改良組合（水利組合）に例年通り水抜き

をお願いしたのですが、残念ながら飛来できるような水辺環境がつけられることはありませんでした。

コウノトリは、幸せを運ぶ鳥として、袋に入った赤ん坊を運ぶシーンがディズニーの漫画にできますが、4年前から3年間「信太山丘陵自然公園」という“子宝”を私たちに運んで来てくれたのではないかと思います。

基本構想ができ、今年からスタートした公園協議会による自然公園づくりは、例えば生まれたばかりの赤ちゃんのようなものです。この子を如何に育て、一人立ちできる自然公園にしていくかが私たちに課せられているのです。

NPO法人 信太の森FANクラブ

事務局：〒594-0013 大阪府和泉市鶴山台3丁目4番1-202

電話 0725-45-7357

E-mail [tamahati@amber.plala.or.jp](mailto:tamahati@amber.plala.or.jp)

## キック・オフ・イベント開催

12月6日（日）公園協議会は、信太山丘陵市有地で保全作業を市民に呼びかける契機とするために、キック・オフ・イベントを開催しました。これには、公園協議会会員や一般市民64名が参加して行われました。



イベントは、公園協議会の増田会長と辻市長の挨拶があった後、一般市民を対象とした視察班と協議会会員の保全作業班に分かれ、視察班はFANクラブの案内で市有地内と惣ヶ池湿地の自然環境を視察し、その後作業班の保全作業の様子を視察しました。

最後に炊き出しのブタ汁が全員に振舞われてキック・オフ・イベントは終了しました。

この日は、関西テレビも取材に入ってくれました。そのニュースは数日後に報道されました。



多くの一般市民が参加したのも“広報”による呼びかけがあったからだと言えます。ワークショップ検討時から信太山丘陵市有地のことについて、「広報いずみ」で市民に知らせる必要性を求めていたのですが、やっと昨年

の12月号ではじめて、4ページに亘って紹介されました。

## カスミサンショウウオ観察会

2月27日（土）FANクラブ・大阪みどりのトラスト協会・公園協議会三者共催による観察会として惣ヶ池湿地におけるカスミサンショウウオの卵囊調査を兼ねた卵囊探しを行いました。（1ページ写真）

これには59名の参加者があり、参加した親子と調査経験者が湿地内に入り、2月中旬に産卵したニホンアカガエルの卵塊を傷めないように注意を払いながら手探りの探索を行ったところ3個の卵囊が見つかりました。

この日、成体は見つかりませんでしたが、多くの参加者がカスミサンショウウオの卵囊を見るのは初めてのようで、白いトレイに入れた卵囊を大勢でとり囲み、写真を撮ったり、観察していました。



カスミサンショウウオの卵囊を観察する参加者

これまで、トラスト協会との合同観察会を年2回実施してきたところですが、今回、公園協議会の今年度下期の観察会の話があり、FANクラブが提案して三者共催で実施したものです。

昨年までの3年間、惣ヶ池湿地で見つかったカスミサンショウウオの卵囊数は0, 1, 0個といった状況で、今回3個見つかったことに少し胸を撫で下ろしていますが、十数個見つかった過去からすれば少な過ぎます。ウシガエルの駆除など今後の保護対策が必要です。

## 惣ヶ池湿地外周柵新設工事

昨年9月、大阪みどりのトラスト協会より「緑のボランティア活動事業」助成金を活用しないかとの話がありました。ちょうど27年度当初から外周柵を古材や竹を利用して補修（信太の森ニュース21号で紹介）工事を始めたばかりでしたので、古材での補修を止めて、新材による柵づくりをしようと、平成27年度（下期）分を申請しました。

助成金の振り込みを待って、12月より新材を何度かに分けて購入し、現在、惣ヶ池湿地北入口、南入口付近の新設作業を進めています。

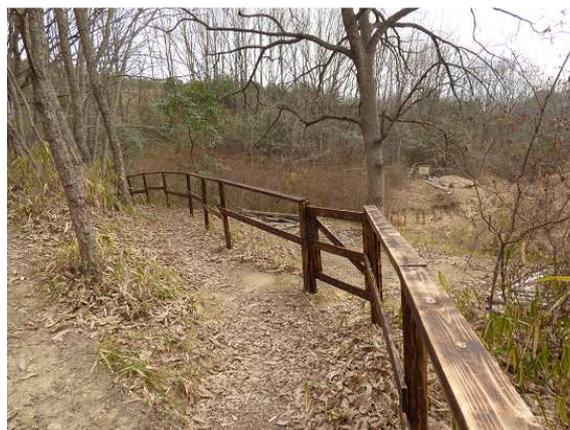
南北の入口の設置作業は4、5人で行いましたが、その延長作業は1人又は2人で少しずつ進めています。



南側入り口の杭打ち作業

3月末までに全体の約1/3を設置する予定ですが、来年度も助成金の申請をし、来年度中には完成させたいと考えています。

設置作業は、定例日以外で行います。軽作業ですので、個々に声を掛けさせていただきますので、作業可能な方はご協力をお願いします。



設置が済んだ北側入口

## 第3回草地生態系シンポジウム開催される

1月23日（土）森の宮環境情報プラザで第3回草地生態系シンポジウムが開催され、信太の森FANクラブからは報告者を含め7名が参加しました。

シンポジウムでは、信太の森FANクラブを含めて7団体からの報告があり、FANクラブは、信太山丘陵市有地の基本構想に基づく草地及び二次林の復元について報告しました。

以下、シンポジウムの感想を当日参加された米田彰一さんに書いていただきました。

### 第3回 草地生態系シンポジウム 感想

見渡しますと、都市公園はもとより郊外の自然公園、森林公園に至るまで広場と名の付くところはほとんど芝生が植生されています。

そんな中で信太山丘陵市有地公園においては、3haあまりが草地再生ゾーンとして、ススキ、チガヤ草原として保全される計画で、生石高原や曾爾高原が住宅地の隣にやってくるのだから夢みたいです。

今回、開催された草地生態系シンポジウムでは、河川敷、軌道敷地、湧水湿地などの草地保全と生物多様性に関する状況と問題点が、各代表より発表され、休憩の後、ディスカッションが行われました。

注目すべきポイントは、草地保全は、農作業と同じで人材を永続的に投入しないと維持できないことでした。

特に河川敷においては、強烈な外来種の占有にたいしてマンパワーが圧倒的に不足するため保全が困難になっている現状の中で、管理者の認識は、生物多様性に対する危機感が全くないということでした。

信太山丘陵保全に対しては、「なぜ草地なのか（芝生広場を作らないか）」という生物多様性に関する認識を地域全体で共有し、継続して活動を進めることが重要と思います。

テーブルディスカッションでは、六甲山系

の東お多福山で草地保全を展開されている橋本様より、人集め、組織づくりの詳しい経過を説明いただきました。

草地保全は、機械作業に頼るところが多く安全確保優先の立場から、経験者を集めることが肝要で、周辺地域の保全団体の空いたスケジュールの中で調整して来てもらっているとのことでした。

信太山丘陵保全でも整備面積が広がるにつれ人集めと安全管理が終始議論されることになるとは思いますが、微力ながら参加させていただきたいと思っています。（米田彰一）

## 気になるニホンアカガエル

今年は暖冬と言われますが、どうなのでしょう。信太山丘陵では4月に咲くフモトスミレが狂い咲きしたところをみると暖冬ともいえませんが、ニホンアカガエルの産卵状況を見ると例年より10日ほど遅れたばかりか、産卵のしかたがどうもおかしな状況です。

2月13日（土）は惣ヶ池湿地の定例作業日でトラスト協会から取材にきました。その取材中、島崎さんが手招きするので、そこへ行ってみると、産卵を迎えたニホンアカガエルが合唱していました。このカエルは耳をすまして聴かなければならないほど鳴き声が低く、産卵期の鳴き声、それも合唱を聴いたのは初めてでした。

その翌日、録音機器を持って行くと、もう合唱は聴けず、そこにはたくさん（100個近く）の卵塊がびっしりありました。

しかし、10日後にそこへ行ってみると、びっしりとあった卵塊が10数個しかなく、オタマジャクシが抜け出した形跡もないのに、生命体が入っていないイクラ大の卵囊だけが個々に浮いて残っているという状況でした。

①産卵が遅れたこと。②広い範囲に産卵せず、1, 2か所の狭い範囲に纏まって産卵していること。③生命体のない卵囊だけが残っていたこ

と。ニホンアカガエルの産卵状況が気になります。

## 信太山丘陵にタヌキのつがい

信太の森の白狐伝説は有名なだけに「信太山にはキツネは居るんですか？」と聞かれることがあります。伝説があるくらいですから過去には居たのですが、現在では居ません。

その代りタヌキなら居ます。タヌキの溜め糞や死骸の存在で居ることは分かっていましたが、昨年までは生きたタヌキを見たことはありませんでした。

今年はタヌキがよく出没し、私たちを楽しませてくれています。高石から歩いて惣ヶ池湿地にやって来る廣石さんからは「タヌキが居てました」、吉原さんからは「写真に撮れました」と聞き、羨ましく思っていたのですが、ついに私も見ることができ、これまでに5回遭遇。写真にも撮ることもできました。



信太山丘陵のタヌキ

つがいなのか二匹います。今日も惣ヶ池湿地の作業小屋（格納庫）で廣石さんとコーヒーを飲んでいるところへ姿を現しました。二匹で行動していました。カメラをとり出した時には既に藪の中。番ならば繁殖が期待されます。繁殖の話から「タヌキ産婦人科」という看板を格納庫に掛けようか」などと馬鹿げた話をしています。FANクラブ会員6人がこのタヌキを確認しています。みなさんも遭遇できるかも？